

令和8年度

取扱注意

授業改善推進プラン【中学校】

- ①令和8年度北区立中学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和8年度第1～3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 5教科(様式3)

東京都北区立飛鳥中学校

令和8年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	漢字・語句、文法事項等の基礎知識は継続して定着を図る。書くこと、話すことの技能を高めると同時に、文章やスピーチ等における図表の効果を考えたり、図表のデータと意見を関連付けたりするなど、情報活用能力も身につけさせる。
社会	資料の読み取りなど、基礎知識を活用した問題に課題が見られる。 反復学習による基礎知識の定着を図るとともに、身につけた知識を活用して考えを深め、説明する機会を増やす。
数学	計算・方程式は安定している一方、図形・データの活用・記述問題で低下が見られる。思考力を要する問題への対応が課題となっているので、図形やデータを考察する時間を増やしていく。
理科	基本的な知識はもっているものの、活用する問題に対しての正答率が低い。自分の考えをまとめ、発表する活動を通して、思考力を高める学習活動を積極的におこなっていく。
英語	文脈や対話の流れに応じた英文を書くこと、概要を理解できるように読むことに課題がある。 教科書を使用する際に、理解と暗記で終わらせずに、言語活動を着実にに取り組ませていく。

本校の教育目標
誇り高く 志をもち 自他を大切に生きる生徒 自ら考え 心豊かに たくましく

本校が生徒に育成したい力
・自ら考え、人を思いやり、実行する力。 ・学ぶ喜びと意欲を大切に、学習習慣を確立し、主体的に考え、判断し、表現しながら学ぶ力。 ・心を込めた挨拶ができ、高い志を抱いて自立した生活習慣や生き方を実行する力。

学力向上にかかわる経営方針
確かな学力を主体的・対話的で深い学びの中で身につけさせる。

校内における学力向上推進体制
・学力向上PT ・校内研修委員会 ・TT少人数委員会 ・教科部会

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・主体的・対話的で深い学びの実現 ・「わかる・できる」授業 ・「考えさせる」授業の充実 ・言語活動の充実 ・ICTの活用	・TTによる授業の実施 ・習熟度に応じた少人数制授業の実施	・定期的な研修会の実施 ・各自の課題に応じた実践的な研究 ・外部研修会への積極的な参加	・適切な指導と評価の一体化（学習計画の配布） ・成績結果の掲示と振り返り（考査記録「鳳雛」の配布） ・生徒、保護者による授業評価を取り入れた授業改善	・北区学校ファミリー構想の具現化 ・外部評価の公開（地域社会・学校評議員等） ・定期考査前の家庭学習の指導 ・保護者への協力依頼 ・各種検定の積極的な受検

〔様式2〕

令和8年度 第1学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立飛鳥中学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を大きく上回っている。	目標値、区平均正答率、全国平均正答率をいずれも、大きく上回っている。「知識・技能」は11.9ポイント、「思考・判断・表現」は15ポイント、目標値を上回っている。	おおむね正答率は区・全国を上回っているものの、「文章を書く」については課題はある。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。	目標値、区平均正答率、全国平均正答率をいずれも上回っている。「知識・技能」は7.6ポイント、「思考・判断・表現」は11.3ポイント、目標値を上回っている。	おおむね正答率は区・全国を上回っているものの、「公民的分野」については課題はある。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎は目標値を12.4%上回っており、全国平均を12.3%上回っている。活用は目標値を9.2%上回っており、全国平均を10%上回っている。	「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点すべてにおいて区・全国の正答率と目標値を上回っている。「知識・技能」においては、全国の正答率より10.9%と大幅に上回っている。	すべてのカテゴリーで全国の正答率を上回っているものの、「単位量あたりの大きさ」と「百分率」に課題がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。	「思考・判断・表現」は、目標値、区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。「知識・技能」は0.1ポイント、目標値を下回っている。	おおむね正答率は区・全国を上回っているものの、「植物のつくりとはたらき」については課題がある。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。	目標値、区平均正答率、全国平均正答率をいずれも上回っている。「知識・技能」は9ポイント、「思考・判断・表現」は10.8ポイント、目標値を上回っている。	おおむね正答率は区・全国を上回っているが、引き続き指導を継続し、読解力、自己表現力を高めていく。

〔様式2〕

令和8年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を大きく上回っている。基礎は8. 5ポイント、活用は13. 4ポイント、目標値を上回っている。	「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点ともに、目標値、区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。「知識・技能」は4. 9ポイント、「思考・判断・表現」は13. 5ポイント、目標値を上回っている。	「書くこと」「読むこと」「情報の扱い方」「我が国の言語文化」が目標値、区平均、全国平均を大きく上回っている。「言葉の特徴」は2. 6ポイントにとどまり、指導の余地がある。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
問題形式の正答率では、「基礎」区平均を上回っており全国平均にはわずかにおよんでいない。「活用」は区平均・全国平均を上回っている。	観点別の正答率では「思考・判断・表現」の問題が区平均を0. 9ポイント上回っている。	問題の内容別では、地理的分野の「世界の諸地域」、歴史的分野の「縄文時代～古墳時代」、「飛鳥時代～平安時代」において全国平均を下回っている問題があり、課題がある。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎は目標値を14.1%上回っており、全国平均を13.2%上回っている。活用は目標値を9.2%上回っており、全国平均を11.8%上回っている。	「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点すべてにおいて区・全国の正答率と目標値を上回っている。「知識・技能」においては、全国の正答率より13.7%と大幅に上回っている。	すべてのカテゴリーで全国の正答率を上回っているものの、「比例・反比例」と「データの分布の傾向」に課題がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。	「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点ともに、目標値、区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。「知識・技能」は2. 6ポイント、「思考・判断・表現」は7. 1ポイント、目標値を上回っている。	「エネルギー」「粒子」「生命」が目標値、区平均、全国平均を上回っている。「地球」は区平均を0. 2ポイント下回り、課題がみられる。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。	目標値、区平均正答率、全国平均正答率をいずれも上回っている。「知識・技能」は15. 2ポイント、「思考・判断・表現」は26. 9ポイント、目標値を上回っている。	いずれの領域も目標値を上回った。しかし、be動詞の過去形や、過去形の疑問文、三人称単数現在形など知識・技能に課題が見られる。

〔様式2〕

令和8年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を大きく上回っている。基礎は7.7ポイント、活用10.2ポイント、目標値を上回っている。	「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点ともに、目標値、区平均正答率、全国平均正答率を大きく上回っている。「知識・技能」は7.0ポイント、「思考・判断・表現」は9.6ポイント、目標値を上回っている。	いずれの領域も目標値を上回った。「書くこと」「読むこと」「我が国の言語文化」に関しては、目標値を10ポイント以上上回ったが、「話すこと・聞くこと」においては、4.4ポイントにとどまり、指導の余地がある。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。目標値と比較して、基礎では3.5ポイント、活用では1.8ポイント上回っている。	「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点ともに区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。目標値と比較して、「知識・技能」では3.2ポイント、「思考・判断・表現」では2.8ポイント上回っている。	地理的分野では、地形図の読み取りや地形の理解の問題が目標値を下回った。歴史的分野では、複数の資料をもとに考察・判断する問題が目標値を下回った。地図や歴史的資料から情報を読み取る力を身に付けさせる指導が必要。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を大きく上回っている。基礎は9.3ポイント、活用は12.8ポイント、目標値を上回っている。	「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点ともに、目標値、区平均正答率、全国平均正答率を大きく上回っている。「知識・技能」は9.7ポイント、「思考・判断・表現」は11.3ポイント、目標値を上回っている。	「図形の性質」のみ目標値を1.2ポイント下回った。証明問題は目標値を上回っているが「式の計算」、「連立方程式」と比べるとポイントは低い。思考を問う問題で得点を落としているので、思考力を高める指導が必要。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎では目標値よりも2.3ポイント、活用では0.4ポイント上回っている。区の平均正答率と比較すると、基礎では6ポイント、活用では1.9ポイント上回る結果となった。	「知識・技能」では2ポイント、「思考・判断・表現」では1.2ポイント目標値よりも上回っている。区の平均正答率と比較すると、「知識・技能」は6ポイント、「知識・技能・表現」は2.8ポイント上回っている。	教科全体としては目標値を上回っている。基本的なことを問う問題に関しての正答率が高いが、思考力を必要とする記述問題を日々の授業の中にとり入れ、考える力を高めさせていきたい。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。目標値と比較して、基礎では15ポイント、活用では、23ポイント上回っている。	目標値、全国平均正答率をいずれも上回っている。区の平均正答率と比較すると、「思考・判断・表現」では8.4ポイント上回っている。	おおむね正答率は区・全国を上回っているが、引き続き指導を継続し、読解力、自己表現力を高めていく。

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	国語への関心は高く、学力調査の結果もおおむね良好である。基礎基本の力は身につけている部分が多いものの、以下の点に課題がある。 ・漢字の読み書き（語彙） ・説明的文章の読み取り ・指定された分量、条件（目的や意図）で文章を書く力 ・自分の考えや立場を明確にして書く力	・漢字テストや練習を通して、書き取り指導を徹底する。字義と語句の意味をよく調べ、記録するように助言し、漢字学習の工夫をさせる。身近な題材で例文を作り、理解して使うようにさせる。 ・説明的文章を丸ごと読み、文章のテーマや筆者の主張を捉えてから、構成について考えさせる。 ・条件に注目させ、それを踏まえた文章構成を徹底反復する。自分の立場を決め、意見を根拠や理由などを交えて明確に述べる取り組みを行う。	・漢字検定の推進。 ・自分の書いた文章を、積極的に他者と交流させる活動。 ・自分の読み取った内容を他者に説明する活動を行う。 ・スピーチやビブリオバトル等をとおして、一番伝えたい内容を意識させ、話の構成や順序について考えさせる。また、内容を捉えた適切な質問をする練習をする。
2年	国語への関心は高く、学力調査の結果もおおむね良好である。基礎基本の力は身につけている部分が多いものの、以下の点に課題がある。 ・漢字の書き取り（および書字技術） ・基本的な文法・語句の知識の定着 ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる力。	・定期的な漢字テストの実施と漢字学習の習慣化を目指す。また、扱う語彙を意図的に増やし、字義と語句の意味をよく調べて記録するように助言し、漢字学習の工夫をさせる。例文を作り、理解して使うようにさせる。 ・ディスカッションやスピーチ、プレゼンの聞き取りなどから、文章の構成を意識させ、話者の意図をつかみ自分の考えを述べる練習をする。	・漢字検定の推進。 ・ブックトークやビブリオバトル等をとおして、スピーチを聞き、話の構成や順序について考えさせる。 ・複数の意見が行き交うディスカッションの場면을授業の中に作り、互いの意見を結び付けて考えたり、意見と根拠をつなげて考える練習をする。 ・漢字学習の時間を定期的に作り、個人の目標に沿って主体的に学習させる。その際は、辞書も活用させる。
3年	国語への関心は高く、学力調査の結果もおおむね良好である。基礎基本の力は身につけている部分が多いものの、以下の点に課題がある。 ・漢字の書き取り（および書字技術）。 ・目的や意図に応じて伝えたいこと、自分の考えを明確にして書く力。	・定期的な漢字テストの実施を継続する。また、ICTを活用すべき場면을吟味し、紙に文章を書く時間を意図的・計画的に配置する。その際、習った漢字は用いるようにし、日常的に漢字を使う場面を作る。 ・条件に注目させ、それを踏まえた文章構成を考えて書く練習を徹底反復する。 ・目的や場面に応じて、必要な情報を取り出し、文章にまとめる取り組みを行う。その際、自分と他人の意見の相違点にも着目させ、根拠を吟味し、自分の考えを再構築する時間も確保する。	・漢字検定の推進。 ・ブックトークやビブリオバトル等をとおして、スピーチを聞き、相手の意図をつかむ練習や自分の意見と比較する経験を積ませる。 ・資料を基にした説明文や論説文などを読み、要点を捉える練習をする。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立飛鳥中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	問題形式の正答率では、「基礎」「活用」とともに区平均・全国平均を上回っており、観点別の正答率でも「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに区平均・全国平均を上回っている。 問題の内容別では、全ての項目で区平均・全国平均を上回っているが、三権分立などの政治的分野にやや課題が見られる。	・授業の中で、用語をきちんと記述するよう、ノートやワークシートの記入の際に指導し、ノートチェックをすることで、正しく書く習慣と正確な知識の定着をはかる。また、既習事項の確認を授業の導入に取り入れ、基礎知識の定着を図る。 ・教科書の資料や、GIGAスクール端末を活用し、授業の学習内容に関する多様な資料に触れる機会を増やし、資料をもとに、既習内容を活用して自分の考えをまとめる機会を設ける。	・実物資料を活用し、学習内容を生徒が身近に感じられるように工夫するとともに、社会科的な見方、考え方の育成に努める。 ・知識定着のために、ワークと復習プリントを活用して反復学習を取り入れ、自主学習を促す。また、長期休暇中に調べ学習に取り組ませ、社会科に関心をもたせ、今後の学習内容への準備をさせるとともに、主体的に学習に取り組む態度の伸長を図る。
2年	問題形式の正答率では、「活用」では区平均・全国平均を上回っているものの、「基礎」において全国平均を下回っており、課題がある。観点別の正答率では「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに区平均・全国平均を上回っている。 問題の内容別では、「世界の諸地域」「縄文時代～古墳時代」の項目に課題が見られ、以前に学習した内容の定着に課題がある。	・授業の中で、用語をきちんと記述するよう、ノートやワークシートの記入の際に指導し、ノートチェックをすることで、正しく書く習慣と正確な知識の定着をはかる。また、既習事項の確認を授業の導入に取り入れ、基礎知識の定着を図る。 ・単元ごとにまとめの時間を確保し、できないところを放置せず、知識が定着するまで学習する習慣を身につけさせる。 ・教科書の資料や、GIGAスクール端末を活用し、授業の学習内容に関する多様な資料に触れる機会を増やし、資料をもとに、既習内容を活用して自分の考えをまとめる機会を設ける。	・知識定着のために、ワークと復習プリントを活用して反復学習を取り入れ、自主学習を促す。また、長期休暇中に調べ学習に取り組ませ、社会科に関心をもたせ、主体的に学習に取り組む態度の伸長を図る。 ・身につけた知識を用いて、生徒が主体的に探求を進められるように、調べ学習などの課題を設定する。
3年	問題形式の正答率では、「基礎」「活用」とともに区平均・全国平均を上回っており、観点別の正答率でも「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに区平均・全国平均を上回っている。 問題の内容別では、「江戸時代末期～明治時代初期」の歴史的分野に課題が見られる。	・授業の中で、用語をきちんと記述するよう、ノートやワークシートの記入の際に指導し、ノートチェックをすることで、正しく書く習慣と正確な知識の定着をはかる。また、既習事項の確認を授業の導入に取り入れ、基礎知識の定着を図る。 ・単元ごとにまとめの時間を確保し、できないところを放置せず、知識が定着するまで学習する習慣を身につけさせる。 ・教科書・資料集や、GIGAスクール端末を活用し、授業の学習内容に関する多様な資料に触れる機会を増やし、資料をもとに、既習内容を活用して自分の考えをまとめる機会を設ける。	・知識定着のために、ワークと復習プリントを活用して反復学習を取り入れ、自主学習を促す。特に歴史的分野においては、1・2年次の復習を授業内の一部に取り入れる。 ・資料を読み取り考察する力を身につけるために、さまざまな資料を活用し、注目するポイントを示して自分の意見をまとめる機会を設定する。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（数 学）

東京都北区立飛鳥中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	北区基礎基本調査によれば、どの領域・分野も正答率は高く、全国の平均点を上回っている。しかし、分数同士の掛け算や単位量あたりの大きさの問題が苦手な傾向にある。	基礎基本の定着に向けて計算を毎時間行い、定期的に小テストを行う。 話し合い活動を充実させて、お互いに教え合うことができる環境づくりを行う。	自主的に学習を進められるように補充の教材を充実させる。 計算コンテストなどを実施し、基礎的な問題の定着を図る。
2年	北区基礎基本調査によれば、どの領域・分野も正答率は高く、全国の平均点を上回っている。 その中でも、4章「比例・反比例」の分野の正答率がやや低めなので「1次関数」では既習事項の確認を意識して授業を行うようにしていく。	「自力解決」→「学び合い」→「全体共有」→「振り返り」のサイクルを授業内で取り組む。 多様な考え方ができる問題演習では、自分の考えを相手に分かりやすく説明するという言語活動を取り入れる。 定期考査や確認テストの分析を行い、正答率の低かった問題を繰り返し出題し取り組む。	分からない問題を友達同士で教え合うことは少しずつできるようになってきたので、次は粘り強く自力で考える力を付けさせたい。そのために、「自力解決」→「学び合い」→「全体共有」→「振り返り」という授業展開で取り組むことで、教え合いそして学び合う指導を行っていく。
3年	北区基礎基本定着度調査の結果によると、教科の正答率の平均は全国・区の数値を上回っている。 また、観点ごとに見ると知識・技能は定着が十分だが、思考・判断・表現は少しポイントが落ちる。図形の証明やデータ分析で得点を落としている。	・図形の問題において、問題を解いて正解を導くだけでなく、その根拠を言語化できるように、教え合いの中で説明できるよう指導を行う。 ・各授業、各単元、定期テスト後において振り返りを行い、苦手な部分の自己分析を行って定着を図る。	・他者への教え合いを行う中で、自分の言葉だけでなく、「相手に伝わる言葉」を意識して教え合いを行う。また、その言葉に正確な数学の言葉を使えるように指導する。 ・自主的に学習を行えるよう、補充教材の充実を図る。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立飛鳥中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	北区基礎基本定着度調査の結果によると、基礎・活用ともに区・全国平均を上回っている。 一方で、「植物のつくりとはたらき」と「大地のつくりと変化」のでの正答率が低い。	・授業の中で、プリントを用いて図解とともに単語を記述し正確な知識の定着をはかる。また、授業の導入に小テストを行うなどして既習事項の確認を行い、基礎知識の定着を図る。 ・教科書の資料や、ICT機器を用いて、目に見えない事象や普段見ることのできない生物などを動画や画像で確認し、知識の定着を図る。	・他者への教え合い活動を繰り返し行う。教え合いの中で、理科の用語をしっかりと使いつつ、相手に伝えるように自分がもつ知識を説明できるようにする。 ・自主学習を促すために、補助教材を各单元ごとに用意する。
2年	北区基礎基本定着度調査の結果によると、基礎・活用ともに区・全国平均を上回っている。 領域別では、「エネルギー」、「生命」、「粒子」の正答率がは区・全国平均を上回っているが、「地球」の分野は正答率が区平均を下回っている。	・小テストを行うなどして既習事項の確認を行い、基礎知識の定着を図る。また、各分野ごとに单元テストを実施し、基礎的な単語や用語の説明を行えるようにする。 ・教科書の資料や、ICT機器を用いて、目に見えない事象や普段見ることのできない生物などを動画や画像で確認し、知識の定着を図る。	・基礎基本の知識を定着させるために、小テストの実施を授業の導入に行う。 ・生徒一人一人が自ら科学的な課題を見つけ、科学的な探究の学習を行えるよう、課題選びの発問と補助を行う。また、生徒同士で課題を発見したり、自分の考えを深めるために教え合い学習や課題の発表を適宜行う。
3年	基礎、活用とも目標値。区の平均を上回っているものの、活用は平均値を同水準である。領域別では、地球分野での数値が低く、粒子・エネルギー分野では平均水準、生命分野では他の分野よりも上回っている。短答での正答率が高いものの、記述での正答率が低い。	分野によってばらつきがないよう、基本的な用語や単語の確認は小テスト等で定期的に確認していきたい。 思考力を高めるためにも、自分の考えをまとめ、グループ学習を通して、他者の意見を取り入れ自分の思考を高められるよう、調べ学習を行っていきたい。	基礎基本をしっかりと定着させるためにも、授業の初めに前時の復習をおこない、定期的に小テスト等をおこなっていく。 探究的な活動については、個人が1つのテーマを見つけ、調べ学習をおこなっていく。また、発表を通して他者の考えを受け入れ、自分の自身の考えをさらに深めさせていきたい。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（英 語）

東京都北区立飛鳥中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	北区基礎基本定着度調査の結果によると、教科の正答率の平均は全国・区の数値を上回っている。 一方で、「ナレーションの概要を聞き取る」「ポスターの内容を読み取り、形式に合わせて書く英作文」に課題が見られる。	1. 「英文の概要を聞き取る」ために、教科書本文を読む前に、内容を口頭で導入し、場面や状況を聞き取れるようにする。英文を聞いて、ストーリーの順番に絵を並び替えたり、5W1Hの情報を聞き取れるようにする。 2. 「条件に合わせて書く英作文」について、3つの視点に立って改善する。 ①「書く」前に「話す」指導を行う。 ②「目的・場面・状況」を設定した課題に取り組ませる。 ③新出言語材料で、文脈のある英文を書かせる。	1. 家庭学習を、指定されたメニューをこなすことから始め、徐々に選択の幅を増やして、自己選択できるようにする。 2. 実際の場面で英語を使う場面を設定する。
2年	基礎・活用ともに区平均を上回っている。とくに、3文以上の英作文を書く問題では、区平均を16.9ポイント上回っているため、1年次から目的・場面・状況を設定して書いたり話したりさせてきた結果が出ている。	1. 「基礎知識」の全体像を学期や単元のはじめに示す。 2. その知識を活用する言語活動を毎時間行い、定着を図る。 3. 単元のゴールで「書いてまとめる」指導を行う。 4. 定期考査がそれらの言語活動から逆算されているように組み立てる。	・帯活動でパターンプラクティスを定期的に行い、確実に基礎的な知識・技能の定着を行う・ ・ディスカッションで、自分の立場を明確にし、相手の意見を尊重しながら、自分の意見を客観的に英語で述べられるように、単元を作っていく。 ・オンライン交流で、複数単元がまとまる経験を積む。
3年	基礎・活用ともに区平均を上回っている。とくに、3文以上の英作文を書く問題では、区平均を大きく上回っているため、1年次から目的・場面・状況を設定して書いたり話したりさせてきた結果が出ている。 また、昨年度の調査で、語形語法の定着に課題が見られたため、定期考査で文脈から判断する語形語法問題を多く取り入れた結果、目標値に対し、大きく上回った。	①単元や目指す生徒像から逆算した授業を展開する。 ②「目的・場面・状況」を明確にし、言語活動の充実を図る。 ③「話す」「書く」活動・発表において、中間指導・発表、評価基準を事前に示すことで、生徒がゴールに向かって思考を働かせて学びをアップデートできるような仕組みと丁寧な指導をする。	・単元末のゴールを見据えて、帯活動で、パターンプラクティスを定期的に行い、基礎的な知識・技能の定着を図る。 ・英語検定「3級以上」取得の推進